

# 寺報みようとく

題字 松川裕子

浄土真宗本願寺派妙徳寺  
(安芸教区志和組)  
発行責任 寺報編集委員会  
東広島市八本松町飯田六〇二  
電話〇八二四二八〇一四四



## 報恩講にお参りください

報恩講は親鸞さまのご法事です。親鸞さまの教えを大切に私たちが浄土真宗門徒にとつてもっとも大切な法要であります。



仏さまの尊さをお教えくださった親鸞さまをお敬いするのが報恩講であり、親鸞さまをお敬いすると同時に私たちが亡くなられたよき方々をお讃えするご法事をお勤めいたします。

浄土真宗では先祖の敬い方を報恩講から学んできました。敬うべき教えはこの方による、伝えるべきはこの方にある、これは大事なことから、伝えなければならぬことだから、と先祖方々からのお讃えの方法を学ぶ場、そして大切にされた教えの伝承の場なのです。

「一語法話」  
弥陀仏の本願念仏は邪見・慢慢・悪衆生信樂受持すること甚だもつて難し  
難のなかの難これにすぎたるはなし  
「正信念仏偈」  
お釈迦さまは困難を経てお悟りを開かれ(降魔成道、左上図参照)ましたが、その内容を人々に語り伝えることを躊躇われたことずいぶん。伝えたいけれど他者には難解で誤解や戸惑いを生じさせ

ざるばかりであつたからと、説法不可能の絶望に陥りながらもただ一人お悟りのよろこびを楽しんでおられました。そのお釈迦さまのお心の内を知ったインドの神である梵天が三度現れ「たしかに衆生はさまざまな立場があり、姿かたちも持つてる力もばらばらです。しかしその中でどう生きるかを求めているものもおりまじう。その者のためにもそのお悟りを説きお示しください」とお願いされたといひます(梵天勸請)。そして

「いま、われ、甘露の門をひらく。耳ある者は聞け」(パーリ仏典経蔵中部『聖求経』意識より)と説法の決意をされました。



気が付いた時からお経があり、当たり前のように仏教に触れていた私たちですが、そこにはお釈迦さまの苦悩と決意があればこそでした。たしかにお釈迦さまが恐れられたとおり、お説法してくださった阿彌陀仏の救いのごことなど、私には壮大すぎて理解不能な不可思議な内容は、おとろけ間違った受け止めをしたりひよつとすると悩みを深めたりもなりかねず、危ういことばかりです。

しかしお釈迦さまはそのこととほすに折り込み済みで、だから救いの道を閉ざしてしまつたのではなく、それでも甘露(救いに至る道)の門を開き、一人でもこの救いの道を歩んでほしいとお考え下さったのです。  
(次頁へ続く)



【上：降魔成道】菩提樹の下で悟りに至ろうとするお釈迦さまを、何とか邪魔しようと考えた魔王たちが剣をもって脅したり、睨み付けたり、左端では隙をみて毒蛇で襲おう(矢印部分)としています。  
【下：梵天勸請】誘惑や脅迫をのり越えてお悟りに至られブツダとなられたお釈迦さまでしたが、悟りの境地を楽しみその内容を人々に説き示すことをためらっておられました。そこに古代インドの最高神の梵天(左)と帝釈天(右)が近づかれ、悟った真理を人々のために説き示すよう要請しました。三度に及ぶ願いを受け、お釈迦さまは人々に説法することを決意されました。(約1700年前、古代インドの仏陀の生涯のレリーフより)



### ライン登録のお願い

風水害や土砂災害、震災なども毎年頻発しており、急な予定変更などをすぐに連絡をお送りできる方法を持つておくことは必要なことだと思います。

非常時の配信にも備えてまいるたいと思います。なお、お寺にお参りいただくたびにポイントをつけていただくお楽しみもつけています。法座だけでなくお参りを差し上げ、プレゼントを用意することにしていきます。何かあるかは楽しみにしていただきます。



御正忌法要(おたんや)  
講師 八本松町篠本派布教使 岡本法治師  
十一月二十五日(月)午後一時から二時  
年末お掃除  
大晦日 午後十一時半から  
除夜会(じよやえ)  
元旦 午前十時より一時間半  
修正会(しゅうしょうえ)  
一月九日(火)午前九時、午後一時

(前頁からの続き)

それにしても「耳あるものは聞け」とおっしゃるのにはありがたいことだと思えます。聞こうと思っかどうかはあなた次第だよ、ということですが聞こうと思つ「その時」にすぐ仏法が聞けるように私はいま説法するのだ、ということでもありません。

### 仏事作法について②

「信は莊嚴より起る」といいます。信仰とはきれいに整えられた仏前で育まれるのであるから、私が手を合す場所を持っているということは大切なのだということでしょう。私たちは「これは大切なことなのだ」と先人方々から、言葉よりもむしろ姿によって教えられる参りました。この大切な場であればこそ、私たちはその意味を踏まえて美しく丁寧に整えなければなりません。前回に続いて仏事と作法について、少しずつお話をいたします。

浄土真宗のお仏壇はお寺の本堂内陣を家庭用に小さくまとめたもので、その中心はご本尊として安置する阿弥陀仏の絵像やお木像です。そしてその前のお飾り

私自身も物心つく前から仏教に触れ、聞く機会をいたたく身の上であります。お釈迦さまがお説法くださったことによつて私の耳元まで仏さまの救いの世界は届いている、でも私はすでに耳を塞いでしまっていました。忙しいから、まだ若くその気になれず準備ができてないから、気に入らない

ことがあるから、理解できないから、などと理由つけて。せっかくな降魔成道、梵天勧請の上でお釈迦さまがお説法してくださったのに、私は自らその機会を失おうとしていたのです。私には身に余る尊い教えだけれども「何とかして届けたい、どうか来たるべき時を逃さず必ず聞いておくれ

はやく甘露の門に入れよ」とお釈迦さまが願われた末にようやく説かれた阿弥陀の教え。聞かされた準備が遅すぎて、もっと早く聴聞しておけばよかった……ということにならないよう、決して「その時」を逃さないようにいたしましよ。

**合同墓・墓地案内**  
有縁の皆さんでおまもりしている合同墓と一般墓地があります。縁ある多くの方にご利用いただきたいと思います。



**妙徳寺ホームページ**  
<http://myotoku-ji.sakura.ne.jp/>  
内容の更新を心がけています。みようとくチャンネルもご覧ください。



(莊嚴)する方法もお寺と同じ「三莊嚴」(灯りとお花と香り)です。前回は灯りとお花についてお話いたしましたから今回は香りについてです。北宋の詩人、黄庭堅の漢詩にある「香十徳」は日本でも約五百年前に説話で有名な禅宗の僧、一休宗純によつて広められました。香りの持つ十のはたらきを挙げて、だから大切にしように勧められています。要約すると、

このように香りは目には見えなくても私を守り、支え力となつてくださる、まるで仏さまのはたらきのようにあるとお讃えさせていただきます。この漢詩以前から仏事にお香を用いておられたと思われませんが、ここにその意味をお示しされあらためて香を用いることの大切さを明らかにされたのです。「このように心地よく仏さまに向き合い、心身ともに満たされる助けとなるのだから」と先人方々は参りの時にお香を用いられたのです。

さて、最近はお香のことを「線香クサイ」などあまり好まれていないように見受けられます。お香に馴染みがないから、またはいい香りに出合っていないから、あるいはお参りにいい印象を持っていないから、でしょうか。どれにしても

お香が用意されている場が心地よい場に思われていないということでしょうか。どうやら、とても残念です。どうかお香が薫るお仏間は心地よい場であつていただきたいと思つています。その印象は懐かしい思い出とともに、手を合わせるこの尊さを伝えることにつながつてく

ださると思つています。とついで、お香には燃香と焼香の別があります。燃香とは線香による香の莊嚴で、焼香とは抹香をくべる作法による莊嚴をいいます。線香は抹香を棒状に加工して、長くゆつくり香り立つように工夫されたものです。抹香は香木などのお香の材料を刻んだものであり、それを直接熱源となる炭火にくべて香り立たせる作法が焼香です。線香による香莊嚴で心地よい場を用ひ浄土真宗の作法による焼香を心掛けていただきたいと思つています。続きはまた次号で。

浄土真宗にはこれらの意味合いに基づいた焼香の作法があります。他宗と作法が違つていることは、その意味合いが違うからです。ぜひ浄土真宗の作法による焼香を心掛けていただきたいと思つています。続きはまた次号で。

浄土真宗ではお焼香の作法をこのように定めています。仏さまへのお敬いの心を表わすための作法です。

- 1 一礼する。(お香にてなく仏さまに)
- 2 前に進んで右手で香を1回つまんで香炉にくべる。
- 3 合掌・念仏・礼拝
- 4 後ろに下がって、最後に一礼。

最近椅子に座つての仏事が多いため、ここでは立つて行う焼香の作法を掲載しました。  
(「浄土真宗仏事作法なんでも大事典」2002年中国新聞社発行 よりイラスト引用)

**志和組テレホン法話「みのりの電話」**  
しじゅうさんざん しくはつく  
082-433-4989

10月 1日	妙徳寺	大江 了証
10月 11日	長松寺	中田 輝道
10月 21日	天龍寺	天野 由紀子
11月 1日	西方寺	安国 真雄
11月 11日	八本松篠	岡本 法治
11月 21日	志和東	石川 了真
12月 1日	寿福寺	田中 真
12月 11日	浄蓮寺	沼田 典生
12月 21日	八本松南	玉田 義幸

志和、八本松川上地区の本派寺院13カ寺のテレホン法話です。3分程度のお話を24時間いつでもお聞きいただけます。ぜひ、電話でもお聴聞してください。

**「写経の会」**  
10月 27日(金) 11月 17日(金) 12月 1日(金)  
それぞれ午後2時より  
申し込みは 代表\_西本さん(428-2466)、または妙徳寺へ

**「生きていくための仏の教え仏教基礎講座」**  
10月 14日(土) 11月 11日(土) 12月 9日(土)  
それぞれ午後2時より  
申し込みは 代表\_廣川さん(428-5935)、または妙徳寺へ

**「妙徳寺仏教壮年会例会」** (原則毎月第2土曜日)  
10月 14日(土) 午後6時より 定例会  
11月 11日(土) 午後6時より 定例会  
12月 9日(土) 午後6時より 寺報編集会議と望年会

**「書道教室」**  
ホームページ内の「行事カレンダー」に稽古日を掲載しています。妙徳寺LINEでも随時お知らせいたします。(毎月3回程度の金曜日 午後2時半～午後5時の間)  
※金谷雷聲先生(蕾門会)による幼児・児童・大人対象、硬筆・毛筆教室です。申込は金谷先生のFAX0823-82-9565 または妙徳寺へご連絡ください。

**「おみのりサロン」開催予定日**  
10月 17日(火) 11月 29日(水)  
12月 11日(月) 午後2時より1時間半  
(住職が本堂に待機、相談をお受けします)